

ずいそう

ムスリムは不思議な人？

熊谷守晃



私は15年ほど前に約2年間、チュニジア人の研究者と職場をともにし、コンクリートに関する論文を共同執筆するという貴重な経験をしました。

彼（A氏）は、母国チュニジアで仏語により大学教育を受け、その後、日本の大学で博士号を取得しており、母国語のアラビア語のほか、英語、仏語、日本語が堪能で、漢字もかなり読み書きができました。

物静かで、極めて科学的、合理的な思考に基づき研究業務を遂行する、有能な研究者でした。もちろん、敬虔な「ムスリムの人」（イスラム教徒）です。

イスラム教徒と言うと「イスラム原理主義」「アルカイダ」「テロ」などの語句がすぐ連想され、我々日本人は「何だかよく分からない人達」「怖い人達」とのイメージを抱きがちです。実は、私もそうでした。

しかし、A氏との交流を通じて偏見が払拭でき、よりニュートラルな気持ちでイスラム世界を見ることができるようになりました。

印象に残ったエピソードを、いくつかご紹介します。「ムスリムの人」を理解する一助になれば幸いです。

エピソード1 私の名前は神様の名前

私「Aさん、あなたの名前の由来は何ですか?」、A氏「神様の名前です」、私「神様の名前なんて、凄いですね」、A氏「いえ、私の国ではみんな神様の名前をつけています」、私「はあ? イスラム教は一神教ですよ。他にも神様がいますの?!!」

何と、神様には「最も慈悲深き者」「最も神聖なる者」「全てを知る者」など、コーランをルーツとする「99の美名（別名）」があると言うのです。

ちなみに、ポピュラーな「アブド…」という名前は、「…」部分が「美名」で、「…であるアッラーの僕（しもべ）」という意味になるのだそうです。

エピソード2 アダムとイブは人間の祖先

「人間はアダムとイブから生まれたのだから」と真顔で言われた時にはびっくりしました。あの合理的なA氏が、宗教上の建前としてではなく、どうやら本気で信じている様子でしたので二度驚きました。

日本ではどうかと聞かれたので「創世神話はあるが、あくまでも神話に過ぎず、歴史的な事実とは誰も考え

てなんかいませんよ」と答えたら、「信じられな〜い」と目を丸くして呆れられてしまいました。

イスラム教徒ばかりでなく、キリスト教原理主義者たちも「進化論はインチキである。聖書に書いてあることはすべて真理、真実であり、ノアの洪水も本当にあった」と主張しています。

アメリカでは、公立学校教育の場で進化論を教えることを禁止する「反進化論法」が、実に1967年まで存在していました。

彼らが自分の中で、どのように科学と宗教の折り合いをつけているのか、ぜひ知りたいものです。

エピソード3 羊は神様が食料として下さったもの

ラマダーン（断食）の期間中は、皆イライラして怒りっぽくなるそうです。また、日が暮れると大宴会となり、かえって食費がかかるとのことです。

ラマダーンが終わると、子羊をメインのご馳走で大宴会を開きます。イスラム教徒は、全世界で約16億人と言われていいますので、数千万頭の羊が、一度に殺されると言うのです。

私が「可哀そうですね」と言うと、A氏は「何? 羊は神様が食べ物として人間に下さったものでしょ」と言いました。この一言で、一神教と多神教の本質的な違いに合点がきました。

確かに、旧約聖書の創世記で、人間は、神にかたどって創造され、自然や動物の支配者とされています。

過酷な環境下で暮らす砂漠の民と、豊かな緑に囲まれた我々とは、世界観・人生観が異なるのも致し方ない事なのかもしれません。

さて、チュニジアでは、民主化運動（ジャスミン革命）により23年間続いた独裁政権が崩壊しましたが、治安は未だに回復していません。

残念ながら、A氏の帰国後の消息は不明ですが、ご家族ともども平穏な暮らしを営まれていることを祈ってやみません。

すべては神の思し召しのままに（インシャラー）。

——くまがい もりあき

日本高圧コンクリート(株) PC事業部 技術顧問